豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

第六十二條　第二回ノ競爭試驗ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律範圍內ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ揭ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試驗ヲ經スシテ試補ヲ命セラルルコトヲ得

第六十六條　左ニ揭ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ニ此ノ限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ取ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章　判事

第六十七條　判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ修身トス

第六十八條　大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補フ其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條　五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十條　十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十一條　第六十九條及第七十條ニ揭ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條　第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ官轉轉所停職免又ハ減俸セラルルコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルルハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條　判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條　判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條　判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルハ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條　檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域內ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於

テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記誤ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條　書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條　書記ニ任セラルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルルコトヲ得

第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ揭ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條　豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章　執達吏

第九十四條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格並ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條　執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域內ノ何レノ場所ニ於テモ其職務ヲ行フ

第九十八條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ揭ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

達執吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヒヲ解ク

第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及ヒ指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入

廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキハ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スル事ヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二　違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑支部若ハ刑事文部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條　第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ認ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末並ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條　裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第百二十八條　休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス

第一　爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求
第二　船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求
第三　財産差押事件
第四　住家其ノ他ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟
第五　養料ノ請求
第六　保證ヲ出サシムルノ請求
第七　取掛リタル建築繼續ニ關ル事件
第八　前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第百二十九條　休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第百三十條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權內ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權內ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編　司法行政ノ職務及監督權

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス
第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス
第三　控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス
第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域內ノ區裁判所ヲ監督ス
第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所々屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第百三十六條　前條ニ揭ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此諭告ヲ爲ス前其ノ定吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十七條　第十八條及第八十四條ニ揭ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條　前數條ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條　裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第百四十三條　此ノ編ニ揭ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ內仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

◎裁判所構成法施行條例（明治二十三年三月法律第二十二號）

第一條　從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條　始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴

院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條　區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條　裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス

既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條　裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條　裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事民事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條　裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條　明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條　明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條　明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條　東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條　沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及ヒ地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條　樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關シ明治十五年第十六號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス

前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條　明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判所規則ニ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條　裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條　裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條　三年以上裁判官又檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條　裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得

裁判所及臺灣總督府法院共助法（三十三年五月法律第八十三號）

第一條　民事及刑事ニ關シ裁判所及臺灣總督府法院ノ間ニ於テハ相互ニ左ノ事項ヲ囑託ス

一　訴訟書類ノ送達
二　證據調
三　令狀ノ執行

第二條　共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人ノ押送ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裁判所及臺灣總督府法院共助ニ關スル費用及押送ノ件（三十三年五月勅令第百七十四號）

第一條　裁判所及臺灣總督府法院間ニ於ケル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル裁判所又ハ臺灣總督府法院ニ於テ之ヲ支出シ互ニ其計算ヲ爲サス

第二條　囚人及刑事被告人ノ押送ニ關スル手續ハ押送地ノ規定ニ依ル

第三條　囚人及刑事被告人ノ押送ニ關スル費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ支辨トス但シ內地及臺灣間ニ於ケル航海中ノ押送費用ハ國庫ノ負擔トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

治安裁判所出張所設置（明治二十一年九月勅令第六十四號）

朕治安裁判所出張所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務並期日ヲ定メ裁判事務ヲ取扱ハシム其位置及ヒ管轄區域ハ司法大臣之ヲ定ム（二十三年法律第六號裁判所構成法同第二十二號裁判所構成法施行條

例參照）

治安裁判所出張所裁判假規程（明治二十三年五月勅令第六十七號）

朕治安裁判所出張所裁判假規程ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

治安裁判所出張所裁判假規程

第一條　治安裁判所出張所ニ於テ取扱フ民事々件ハ左ノ如シ

一　金錢其他換用物若クハ有價證券ノ一定シタル員額又ハ特定ノ物品ニ對スル請求

二　建物ノ全部若クハ一部ノ明渡又ハ修繕ノ請求

前二項ノ事件ハ原被告其管轄區域內ニ現在スルカ若クハ原被告共ニ出廷シテ審問裁判ヲ請フトキニ限ル

三　勸解

第二條　前條ニ記載セル事件タリトモ急速ノ取調ヲ要シ出張裁判開始ノ期ヲ待チ難キモノ又ハ第二ノ事件ニシテ契約ニ付爭アルモノハ後前ノ通リ治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

第三條　出張裁判ノ管轄區域開延ノ場所及ヒ期日ハ司法大臣ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

出張スヘキ裁判官ハ毎年若クハ毎期管轄始審裁判所長之ヲ定ム

第四條　出張裁判官ハ繁難ナリト認ムル事件ヲ治安裁判所本廳ニ移スノ命令ヲ爲スコトヲ得

第五條　出張裁判ヲ開クヘキ場所ニ該ル治安裁判所出張所ハ豫シメ訴狀ノ送達其他期日ニ至リ直チニ審問裁判ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

書類ハ原告人ヲシテ送達セシム可シ

第六條　裁判及ヒ命令ノ執行ニシテ開期內ニ終結シ難キモノ及ヒ執行ニ關シ出張裁判閉期後ニ起ル故障ハ治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

地方裁判所支部ノ判事撿事及區裁判所監督判事補職ノ件（明治二十四年八月司法省訓令第五號）

地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキ判事檢事及區裁判所監督判事補職等ノ件ニ付左ノ通リ相定ム

一　地方裁判所ノ支部ヲ置ク區裁判所ノ判事又ハ檢事ヲ地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補シタル處自今地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補スルヲ止メ區裁判所ノ判事又ハ檢事ハ當然地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキモノトス

二　區裁判所監督判事モ亦補職スルヲ止メ自今特ニ之ヲ命スルモノトス但シ現在ノ監督判事ハ別ニ辭令書ヲ用ヒス其區裁判所判事ニ補シ其廳ノ監督ヲ命シタルモノトス

裁判所位置及管轄區域（明治二十三年八月法律第六十二號）

朕裁判所位置及管轄區域改定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム此法律ハ裁判所構成法實施

ノ日ヨリ効力ヲ有ス

裁判所位置及管轄區域別表ノ通改定ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム

（裁判所位置及管轄區域表略ス）

●裁判所位置及管轄區域ノ變更（明治二十八年三月法律第二十一號）

明治二十三年法律第六十二號裁判所位置及管轄區域表中大阪控訴院管轄伊豫國ヲ廣島控訴院ノ管轄ニ變更シ又廣島控訴院管轄因幡伯耆ノ國ヲ大坂控訴院ノ管轄ニ變更ス

此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

但シ明治二十八年三月三十日以前ニ係ル松山地方裁判所及鳥取地方裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ハ各從前ノ控訴院ヲシテ管轄セシム

○法　律（明治二十九年三月第六十一號）

第一條　横濱地方裁判所管内八王子區裁判所ヲ東京地方裁判所ノ管轄トス但シ此ノ法律施行前ニ於テ八王子區裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ横濱地方裁判所ノ管轄トス

第二條　札幌地方裁判所管内北見國宗谷郡稚内村ニ稚内區裁判所ヲ置ク

札幌地方裁判所管内幌泉區裁判所ヲ日高國浦河郡浦河村ニ移シ浦河區裁判所ト改稱ス

稚内區裁判所及浦河區裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ稚内區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ハ其ノ開廳マテハ仍増毛區裁判所ヲシテ管轄セシム

第三條　裁判所位置及管轄區域表中東京、横濱、水戸、浦和、前橋、長野、新潟、奈良、福井、和歌山、高松、名古屋、廣島、山口、福島、山形、盛岡、秋田、札幌ノ各地方裁判所管内ニ於ケル區裁判所管轄中左表ノ通改定ス

（裁判所位置及管轄區域表略ス）

○法　律（明治二十九年四月第八十八號）

第一條　東京地方裁判所管内京橋區裁判所、芝區裁判所、麹町區裁判所、下谷區裁判所、本郷區裁判所ヲ廢シ更ニ東京區裁判所ヲ設シ從前各區裁判所ノ管轄トス

第二條　東京區裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ東京區裁判所開廳マテハ仍從前ノ各區裁判所ヲシテ之ヲ管轄セシム

○法　律（明治三十二年二月第二十號）

第一條　東京地方裁判所管内伊豆國新島本村ニ新島區裁判所ヲ置キ同國八丈島大賀郷ニ八丈島區裁判所ヲ置ク

同地方裁判所管内小笠原島ノ内父島大村ニ父島區裁判所ヲ置ク

第二條　那覇地方裁判所管内琉球國宮古郡西里村ニ宮古區裁判所ヲ置キ同國八重山郡大濱切間ニ八重山區裁判所ヲ置ク

第三條　大坂地方裁判所管内天王寺區裁判所ヲ廢止ス

第四條　岡山地方裁判所管内津山區裁判所管轄播摩國佐用郡石井村ヲ神戸地方裁判所管内龍野區裁判所ノ管轄ニ編入ス但シ此ノ法律施行前ニ於テ津山區裁判所ノ爲シタル裁判ニ

對スル上訴ハ岡山地方裁判所ノ管轄トス

第五條　新置區裁判所ノ開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ新置區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ハ其ノ開廳マテ舊管轄ノ區裁判所又ハ島吏ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第六條　裁判所位置及管轄區域表中東京、前橋、大坂、神戸、岐阜、熊本、鹿兒島、那覇ノ各地方裁判所管內ニ於ケル區裁判所管轄中左表ノ通改定ス

（裁判所位置及區域表略ス）

●裁判所管轄區域變更ニ關スル件（三十三年三月法律第二十三號）

第一條　千葉縣地方裁判所管內佐原區裁判所管轄常陸國稻敷郡金江津村、十余島村、本新島村ヲ水戸地方裁判所管內龍ケ崎區裁判所ノ管轄ニ編入ス但シ本法施行前ニ於テ佐原區裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ千葉地方裁判所ノ管轄トス

第二條　裁判所位置及管轄區域表中橫濱、千葉、水戸、靜岡、新潟、名古屋、福岡、盛岡ノ各地方裁判所管內ニ於ケル區裁判所管轄中左表ノ通改正ス

（表ヲ略ス）

●裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル件（三十三年三月法律第五十八條）

第一條　金澤地方裁判所管內能登國珠洲郡飯田町ニ飯田區裁判所ヲ置ク

第二條　長崎地方裁判所管內肥前國東彼杵郡佐世保村ニ佐世保區裁判所ヲ置ク

第三條　福岡地方裁判所管內筑後國浮羽郡吉井町ニ吉井區裁判所ヲ置ク

第四條　札幌地方裁判所管內石狩國上川上郡旭川村ニ旭川區裁判所ヲ置キ同地方裁判所管內膽振國室蘭郡本町ニ室蘭區裁判所ヲ置ク

第五條　根室地市裁判所管內千島國紗那郡紗那村ニ紗那區裁判所ヲ置キ同地方裁判所管內十勝國河西郡下帶廣村ニ帶廣區裁判所ヲ置ク

第六條　新置裁判所ハ其ノ開廳期日ハ司法大臣之ヲ定ム但シ新置區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ハ其ノ開廳迄舊管轄區裁判所ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第七條　裁判所位置及管轄區域表中金澤長崎福岡札幌根室ノ各地方裁判所管內ニ於ケル區裁判所管轄中左表ノ通リ改定ス

（別表ヲ略ス）

●樺戸集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十五年三月第十六號布告）

樺戸集治監ノ囚人（假出獄免幽閉ノ者トモ）罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

●空知集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十五年八月第四十一號布告）

空知集治監ノ囚人（假出獄免幽閉ノ者トモ）罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

●釧路集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十八年二月第四十二號布告）

釧路集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

●違警罪即決例（明治十八年九月第三十一號布告）

第一條　警察署長及分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日罪名刑名名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得キヘ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一月ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シヲ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●陸軍々人軍屬違警罪即決處分例（明治十九年五月勅令第四十四號）

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ印決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條　軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

●海軍軍人軍屬違警罪處分例（明治二十二年十月法律第二十五號）

第一條　海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ船舶團長ニ通知ス可シ

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致ス可シ

第六條　海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　即決言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦船團長又ハ被告人所在ノ地ノ軍法會議主理ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

●海軍々人軍屬違警罪處分通知方（明治三十年五月海軍省訓令第一號）

海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ヲ憲兵隊若クハ警察署ニ於テ違警罪即決例ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第六章　陸海軍治罪及戒嚴

●陸軍治罪法（明治二十一年十月法律第二號）

朕陸軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

第一章　總則

第一條　軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條　軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條　軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ
海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條　長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條　親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條　普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス普通治罪法ハ二十三年第九十六號刑事訴訟法ヲ以テ改正ス

第七條　歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章　軍法會議ノ構成

第九條　各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク
東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク
軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條　軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以ヲ構成ス

第十一條　判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ依リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將將ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被告人
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以下ノ軍人
佐官一名	大尉若ハ中尉二名少尉二名	陸軍少尉及同等ノ陸海軍人並ニ准士官
佐官一名	大尉二名中尉二名	陸軍中尉及同等ノ陸海軍人
大佐若ハ中佐一名	少佐二名大尉二名	陸軍大尉及同等ノ陸海軍人
大佐一名	中佐二名少佐二名	陸軍少佐及同等ノ陸海軍人
少將一名	大佐二名中佐二名	陸軍中佐及同等ノ陸海軍人
中將一名	少將二名大佐二名	陸軍大佐及同等ノ陸海軍人
中將一名	中將二名少將二名	陸軍少將及同等ノ陸海軍人
大將一名	大將一名中將三名	陸軍中將及同等ノ陸海軍人

大將 一名	大將 二名 中將 二名	陸海軍大將

第二表

判士長	判士	被告人
佐官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人
佐官 一名	大尉若ハ中尉 二名 少尉 二名	陸軍少尉及同等ノ陸海軍人並ニ准士官
佐官 一名	大尉 二名 中尉 二名	陸軍中尉及同等ノ陸海軍人
大佐若ハ中佐 一名	少佐 二名 大尉 二名	陸軍大尉及同等ノ陸海軍人
大佐 一名	中佐 二名 少佐 二名	陸軍少佐及同等ノ陸海軍人
少將 一名	大佐 二名 中佐 二名	陸軍中佐及同等ノ陸海軍人
中將 一名	少將 二名 大佐 二名	陸軍大佐及同等ノ陸海軍人

第十二條　將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條　判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一　被告人被害者及其配偶者ノ親屬

二　被告人被害者ノ後見人

三　告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條　原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス

但闕席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條　第十二條第三項ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　軍法會議ノ權限

第十八條　師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪

ヲ審判ス

第十九條　軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條　高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條　軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條　合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條　臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十四條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條　俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條　軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條　軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニ渉テ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條　重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若シクハ重罪輕罪トシテ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條　軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章　陸軍檢察

第三十條　陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜査シ證憑ヲ收集ス

第三十一條　陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一　憲兵ノ將校下士

二　師團副官

三　旅團副官

四　警備隊司令官

第三十二條　各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲ス可シ

第三十三條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得(刑訴ノ改ニ依リ豫審判事告訴受理權ナシ)

第三十四條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條　陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條　陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡査ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條　何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

第三十八條　憲兵卒巡査現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條　陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條　陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條　陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條　司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作リ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條　豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條　告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條　陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ

二　裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢

察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三　高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章　審問

第四十六條　陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二　審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條　理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷モシムルコトヲ得

第四十八條　理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條　理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐レアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十條　勾引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條　理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢索官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑托スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條　勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條　理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條　理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リ其逃捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條　理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條　勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ヲ受ク可キ被告人營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

被告人海軍艦船營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ違アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條　理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條　理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾疾其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

一　被害者

二　被害者及ヒ被告人ノ親屬

三　被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四　被害者及ヒ被告人ノ雇人

五　現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告受ケタル者

六　重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者

七　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八　十六歲未滿ノ者

九　智覺精神ノ不充分ナル者

十　瘖啞者

第六十一條　理事被告人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅捜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急速ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　理事犯罪ノ性質方法及結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作リ其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條　理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十四條　理事ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條　理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル祕密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條　理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條　理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條　證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル

罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條　理事ハ被告事件ニ關スル調書說明ノ爲メ其調書ヲ作リタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條　理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條　軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條　理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營內居住ノ者ハ責付スル限ニ在ラス

第七十三條　理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作リ訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二　裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條　陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章　判決

第七十五條　軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條　判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條　判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條　判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條　證人鑑定人通事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一　違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料
二　輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條　判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシムヘシ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條　被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ逃走ニ依リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷モサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條　數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ說明ス可シ

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ遵ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條　判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士錄事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

一　判決ノ理由
二　有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
三　無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證憑備ラサルコト
四　免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタル定判決ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト
五　管轄違ノ判決書ニハ其旨
六　私訴ノ判決アリタルトキハ其旨
七　被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第八十七條　左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官

ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一　死刑ニ該リタルトキ

二　佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三　尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條　陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條　軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條　長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九十一條　陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條　裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條　禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リ逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條　被告人闕席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ掲示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章　再審

第九十五條　陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條　軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一　人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ

生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
二　同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
三　公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
四　既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
五　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリトキ
六　公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條　陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具ス可シ

第九十八條　闕席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日內ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ三日內ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條　再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ取ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ闕席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第百條　陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條　再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章　復　權

第百二條　復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復權願書ハ二通ヲ作リ本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

一　裁判宣告書ノ謄本
二　主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
三　假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四　賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五　過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條　長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作リ一切ノ書類ヲ添ヘ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條　陸軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百五條　復權ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百六條　復權ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ

復權ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章　特　赦

第百七條　特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徵シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百八條　陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第百九條　陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十條　特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第百十一條　特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ヲ申請ニ係ルモノハ其理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

陸軍治罪法執行規則（明治二十一年十一月陸軍省第二百四號達）

陸軍治罪法執行規則別冊ノ通之ヲ定メ來ル明治廿二年一月一日ヨリ施行シ犯罪取扱手續竝書式ハ本年限之ヲ廢ス

（別冊）　陸軍治罪法場行規則

第一條　陸軍檢察官各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令理事檢察ノ處分ヲ終リ陸軍大臣若クハ長官ニ具申スルトキハ左ノ書類物品ヲ添フ可シ

一　被告人調書
二　被害届
三　私訴ノ請求書
四　證據人調書
五　證據物品其他參考書類
六　鑑定書
七　檢證調書
八　所在分明ナラサル被告人ノ人相書
九　書類及ヒ物品目錄

被告人所屬ノ長官隊長檢察ノ處分ヲ爲シ具申ヲナストキハ被告人ノ前罰科宣告證アレハ其全文(素行調書ヲ添フヘシ

第二條　長官審問若ハ審判判決ノ命令ヲ下ス時ハ命令書ヲ訴訟書類共ニ理事ニ下付ス可シ裁判管轄ニアラサルモノ及ヒ命令ヲ下スヘカラサルモノハ其書類ヲ返還ス可シ

第三條　理事陸軍大臣若クハ長官ヨリ被告事件ノ下付アリタルトキハ錄事ヲシテ其事件及ヒ所管隊號氏名等ヲ帖簿ニ登記セシメ審問判決ヲ爲スノ手續ヲ爲ス可シ

第四條　召喚狀ヲ發スルトキ被告人軍人ナルトキハ其所屬ノ官廨本隊若クハ被告事件ヲ具申シタル檢察官ニ移シテ送付ノ處分ヲ求ム可シ若シ護送ヲ要スルトキハ之ヲ求ムルコトヲ得但シ營外居住ノ者ニ係ルトキハ直チニ本人ヲ交付シ出廷セシムルコトヲ得

被告人所在ノ地ニ所屬官廨若クハ本隊アラサルトキハ本人ニ交付シ出廷セシムヘシ

第五條　令狀執行ノ命令ヲ受ケタル者之ヲ執行シ若クハ執行スル能ハサルトキハ其旨ヲ理事ニ報告ス可シ

第六條　召喚狀勾引狀ヲ以テ出廷セシメタル被告人ニ收禁狀ヲ發シ若クハ留置ヲ命シタルトキハ看守卒若クハ憲兵卒ヲ以テ監獄ニ護送セシム可シ憲兵ノ設ナキ地ニ在テハ衛兵ヲシテ護送セシムルコトヲ得

拘引狀ヲ以テ監獄ニ護送セシムルトキハ亦前項ノ例ニ依ル可シ

第七條　拘引狀ヲ以テ留置スル期限ハ休暇ノ日ヲ算入セサルモノトス

第八條　罰金以下ノ刑ニ該ルモノト認ムルトキト雖モ其被告人遠隔ノ地ニ在ル軍人ニシテ營內居住ノ者ナルトキハ之ヲ營獄ニ留置スルコトヲ得

第九條　被告人ヲ收禁留置シ若クハ收禁留置ヲ取消シタルトキハ理事被告人所屬ノ官廨若クハ本隊及ヒ監獄ニ通報ス可シ他管ノ軍人ヲ收禁留置シタルトキハ本管軍法會議ニモ之ヲ通報ス可シ其奏任以上及ヒ帶勲者ニ係ルトキハ之ヲ長官ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ

長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ但帶勲者ニ係ルトキハ勲章年金褫奪及ヒ停止取扱手續

第十條　外國公使館內ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ要シ若クハ令狀ヲ受クヘキ者外國公使館ニ屈ハレ若クハ外國公使館內ニ住居スル者ニ係ルトキハ理事其事實ヲ記シ其公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ長官ニ具申シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

陸軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ理事其旨ヲ公使館官吏ニ告ケ檢證處分ヲ爲シ若クハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ令狀ノ行

者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシムル可シ

第十一條　被告人ヲ責付シタルトキハ理事被告人ヲシテ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷スヘキノ證書ヲ出サシメ且ツ責付セラレタル者ヲシテ注意視察スヘキ旨ノ證書ヲ出サシム可シ

被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷スサルトキハ責付ヲ取消ス可シ

第十二條　證人鑑定人通事事實參考人參考ノ爲メ鑑定ヲ命スヘモ者軍人ナルトキハ其所屬ノ官廨若クハ本隊ニ呼出狀ヲ移シテ其出廷ヲ求ム可シ但營外居住ノ者ナルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシムル可シ

其地ニ所屬官廨若クハ本隊アラサルトキハ直チニ本人ニ交付シ出廷セシム可シ

第十三條　判士長理事證人鑑定人等ニ罰金ヲ科スルトキハ錄事トニ法廷ニ臨ミ之ヲ宣告ス可シ判士長宣告ヲ爲ストキハ理事之ニ立會フ可シ

呼出ニ應セサルニ因リ罰金ヲ科セラレタル者營內居住ノ者ナル時ハ理事宣告書ヲ本人所屬ノ官廨若クハ本隊ニ移シテ其送達ヲ要メ且罰金ヲ期限內納完セシムヘキ旨ヲ照會シ營外居住ノ者ナルトキハ直チニ宣告書ヲ其住所ニ送達ス可シ

判士長ノ科シタル罰金宣告書ハ判士長錄事署名捺印シ理事ノ科シタル罰金ノ宣告書ハ理事錄事署名捺印ス可シ

罰金ノ宣告ヲ爲シ若ケハ其宣告ヲ取消シタルトキハ第二十九條ノ例ニ從ヒ理事之ヲ本人所屬ノ官廨若クハ本隊及ヒ區戶長ニ通報ス可シ

限內罰金ヲ納完セス若クハ罰金ニ換ヘタル禁錮限內罰金ヲ納完シタルトキハ第三十一條第三十二條ノ例ニ從フ但理事ノ科シタル罰金ヲ禁錮ニ換フルトキハ理事直ニ之ヲ命ス

第十四條　理事被告事件裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲スヘキノ具申ヲ爲シ陸軍大臣若クハ長官ノ認可アリタルトキハ言渡書ヲ作リ錄事ト共ニ署名捺印シ法廷ニ臨ミ之ヲ被告人ニ諭示シ裁判管轄ニ非サルモノハ其事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡クルノ後其地ノ檢事ニ送致シ違警罪事件ナルトキハ管轄ノ憲兵隊若クハ警察署ニ送致ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スルトキハ第六條ニ從フヘシ若シ送致スヘキ地遠隔ナルトキハ地方警察署ニ遞傳護送ヲ囑託スヘシ但便宜ニ依リ兵員ヲ以テ護送セシムルコトヲ得

第十五條　理事免訴若クハ管轄違ヒノ言渡ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ被告人所屬ノ官廨若クハ本隊及民事原告人ニ通報シ被告人收禁留置ニ係ルトキハ之ヲ監獄ニ通報ス可シ

第十六條　直チニ判決ニ付セラレタル事件ニ於テ判士長若クハ理事審問ヲ必要ト認ムルトキハ其旨ヲ命令ヲ下シタル陸軍大臣若クハ長官ニ具申スルコトヲ得

第十七條　判決ノトキニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シ理事其審問ヲ爲シタルトキハ意見書ヲ出ス可シ

第十八條　軍法會議ノ判決ハ過半數ノ說ヲ以テ之ヲ決ス其說三說以上ニ分レ過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル說ヨリ順次利益ナル說ニ合算ス賠償ノ金額ニ關シ三說以上ニ分レ其說過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次算額ノ意見ニ合算ス

第十九條　發說ノ順序ハ下級ノ者ヨリ其說ヲ述ヘ順次上級ニ遡ル可シ若シ同級ノ者二人以上ナルトキハ其同級中新任ノ者始メニ其說ヲ述フ可シ

第二十條　被告人證人事實參考人ノ陳述シタル所ト異ナルトキハ錄事其要領ヲ記錄シ判士

長及ヒ理事ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添置ク可シ

第二十一條　高等軍法會議ニ於テ再審ニ就キ直チニ判決ニ付スルノ命令ヲ受ケタルトキ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ要セサルモノト爲ストキハ其訊問ヲ爲サスシテ判決ヲ爲スコトヲ得但闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ地ラス

其宣告ハ宣告書ヲ被告人所在ノ在ノ長官ニ移シテ其所屬軍法會議ニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス

違警罪ノ正式裁判ニ於テモ亦本條ノ例ニ從フコトヲ得

第二十二條　再審ノ裁判アリタルニ依リ更ニ刑ヲ執行スヘキトキハ其刑ヨリ先ニ受ケタル刑ヲ控除スルモノトス

第二十三條　損害陸軍官署若クハ軍人ニ係ルトキハ理事被害者ニ返還賠償ノ請求ハ本案終結前ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ通知ス可シ

第二十四條　裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ

一　勅任官

二　奏任官

三　判任官以下

第二十五條　無罪免訴若クハ罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事直チニ被告人ヲ放免ス可シ

重罪ノ刑及ヒ禁錮拘留並ニ懲治場ニ留置スルノ宣告アリタルトキハ被告人ヲ監獄ニ交付ス可シ

管轄違ノ宣告アリタルトキハ其事件ヲ管轄軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所ト管轄違ノ宣告アリタルトキハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ其他ノ檢事ニ送致ス可シ

前數項ノ處分ヲ爲ストキハ裁判宣告書ヲ添ヘ收禁ニ係ラキル被告人ヲ監獄ニ交付シ其他陸軍檢察官若クハ檢事ニ被告人ヲ交付スルトキハ第六條第十四條末項ニ從ヒ護送セシメ收禁留置ニ係ル被告人ヲ放免シ及ヒ他方ニ移ストキハ其旨ヲ監獄ニ通報ニ可シ

第二十六條　徒流懲役禁獄ノ刑ニ處スル者陸海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法禁錮ノ刑ニ處スル將校軍屬禁錮ノ刑ニ處スル常人並ニ懲治場ニ留置スル者ノ交付ヲ受ケタルトキハ監獄長裁判宣告書ヲ添ヘ其地方監獄ニ送付ス可シ若シ其監獄遠隔ナルトキハ

第十四條末項ノ例ニ從フ可シ

第二十七條　刑ノ宣告ヲ受ケタル者帶勲者ニ係ルトキハ理事之ヲ長官ニ具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ勲章年金褫奪停止取扱手續第二條第七條ニ從ヒ處分ス可シ

第二十八條　私訴ノ裁判宣告ヲ爲ストキ被害者官署ニ係リ若クハ軍人ニシテ其地ニ在ラサルトキハ其宣告書ヲ被告者ニ送致ス可シ

第二十九條　有罪無罪ヲ問ハス裁判宣告アリタルトキハ理事宣告書ヲ添ヘ被告人所屬ノ官廨若ハ本隊ニ通報シ死刑ノ執行アリタルトキハ榜示公告スヘキコトヲ郡區長ニ照會ス可シ

闕席ノママ宣告シタルモノニ係ルトキハ其宣告書ヲ被告人ノ現住所ニ送達シ被告人當內居住ノ者ニシテ逃亡中ナルトキハ本管若クハ寄留ノ住所ニ送達ス可シ

刑ノ宣告及再審ノ裁判ニ於テ無罪免訴ノ宣告アリタルトキハ其旨ヲ被告人本籍ノ區戶長

ニ通報シ他管ノ軍人ニ係ルトキハ左管軍法會議ニモ通報スヘシ

第三十條　罰金科料ノ宣告アリタルトキハ理事期限内ニ之ヲ完納セシム可シ其被告人當内居住ノ者ナルトキハ所屬隊長ニ照會シテ納完セシム其監獄ニ在ルトキハ監獄長ニ照會シ監獄長之ヲ隊長ニ照會ス可シ

第三十一條　罰金科料ヲ限内納完セサルトキハ理事禁錮若クハ拘留ニ換ヘンコトヲ判士長ニ求メ言渡書ヲ作リ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ言渡シ監獄ニ付スヘシ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ言渡書ヲ被告人所在ノ地ノ軍法會議ノ理事ニ送致シ其處分ヲ求ム可シ

被告人新在ノ地ニ軍法會議ナキトキハ言渡書ヲ被告人所屬ノ長官隊長ニ送致シ言渡及執行ノ處分ヲ求ム可シ長官隊長ハ營倉ニ於テ執行ス可シ

禁錮拘留限内罰金科料ヲ納完シタルトキハ禁錮拘留ノ言渡ヲ爲シタル者放免ノ處分ヲ爲スヘシ長官隊長及ヒ言渡書ノ送致ヲ受ケタル理事ハ納完シタル金圓ヲ添ヘ之ヲ原軍法會議ノ理事ニ通報ス可シ

原軍法會議ノ理事自ラ放面ノ處分ヲ爲シ若クハ放免シタルノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ判士長ニ通報スヘシ

第三十二條　理事前條ニ依リ被告人ヲ監獄ニ交付シ若クハ放免ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ長官隊長監獄長ニ通報スヘシ

被告人所在ノ地ノ理事前項ノ所分ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三十三條　關席裁判ヲ受ケタル者其犯罪ヲ自首シ若クハ捕ニ就キ其裁判アリタルコトヲ知ラサルトキハ其自首ヲ受ケ若クハ逮捕シタル官署ニ於テ關席裁判アリタル旨及ヒ法律ニ定ムル期限内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ告ク可シ其申訴ヲ爲シタル時ハ裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ申訴狀ヲ送致ス可シ

第三十四條　關席裁判ニ依リ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者自首若クハ捕ニ就クトキハ其宣告ヲ爲シタル軍法書議所在ノ地ノ監獄長ニ交付シ監獄長ハ之ヲ理事ニ通報ス可シ

理事前項ノ通報ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ被告人所屬ノ官廨察クハ本隊ニ通報ス可シ再審ノ申訴ヲ爲サスシテ其期限盡キタル時ハ監獄長ニニ宣告書ヲ移シ刑ノ執行ヲ爲サシム可シ

第三十五條　關席裁判ニ係ルモノヲ除クノ外再審ニ於テ罪免訴及ヒ原裁判ヨリ輕キ刑ノ宣告アリタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ榜示公告ス可シ

第三十六條　錄事ハ宣告ノ年月日及ヒ刑名刑期等ヲ遺漏ナク簿冊ニ登記ス可シ

第三十七條　死刑執行ノ命令アリタルトキハ理事豫メ其期日ヲ定メ之ヲ長官具申ス可シ高等軍法會議ニ在テハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ

長官ハ醫官憲兵竝ニ隊兵出場ノ處分ヲ爲シ且監獄長ヲシテ死刑執行ノ準備ヲ爲サシム可シ

第三十八條　死刑ヲ行執スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ理事監獄長醫官錄事之ニ會同シ監獄長死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後小銃ヲ以テ之ヲ射殺ス其護送及ヒ執行ハ本人所屬ノ隊兵一小隊ヲ以テ之ニ充テ隊外若クハ其地ニ所屬本隊アラアル者ニ係ルトキハ步兵一小隊ヲ以テ之ニ充ツ

第三十九條　死刑ヲ行フトキ刑場ノ警戒ハ憲兵ヲシテ之ヲ爲サシメ憲兵ノ設ケナキ地ニ在テハ衛兵ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第四十條　死刑執行ノ始末書ハ錄事之ヲ作リ理事監獄長醫官錄事署名捺印ス可シ

第四十一條　死刑執行終リタルトキハ監獄長看守長書記ヲシテ埋葬ノ處分ヲ爲サシム可シ

遺骸ノ下付ヲ請フモノアルトキハ看守長書記ヲシテ其下付ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四十二條　長官ハ事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此條例ヲ變更省畧スルコトヲ得

第四十三條　軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言渡ニ對シ上告スル者アルトキハ理事辨明書作リ訴訟文書ニ添ヘ長官ヲ經由シ高等軍法會議ニ在テハ陸軍大臣ヲ經由シ之ヲ大審院ニ送致ス可シ

第四十四條　理事特赦狀ノ下付ヲ受ケ其傳達ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ本人所屬ノ官廨本隊竝ニ本籍ノ區戶長ニ通知ス可シ

●屯田兵司令部ニ軍法會議ヲ設クルノ件（明治二十二年十月法律第二十七號）

第一條　屯田兵所在地ニ軍法會議ヲ設ケ北海道ヲ以テ其管轄ト爲シ屯田兵司令官ノ部下ニ屬スル軍人ノ犯罪ヲ審判セシム

其軍法會議ノ構成權限檢察復權特赦其他治罪ニ關スル手續ハ總テ陸軍治罪法ニ從フ

第二條　陸軍治罪法ニ於テ長官ノ職權ハ屯田兵司令官之ヲ行フ

第三條　佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ屯田兵司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

其部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ屯田兵司令官ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第四條　陸軍檢察官ノ職務ハ屯田兵司令部副官之ヲ行フ

●臺灣陸軍軍法會議法（明治三十二年二月法律第二號）

第一條　臺灣ニ陸軍軍法會議ヲ設ク

第二條　臺灣陸軍軍法會議ハ臺灣及澎湖列島ヲ以テ管轄ト爲シ其構成權限及治罪ニ關スル諸般ノ手續ハ陸軍治罪法師管軍法會議ノ例ニ依ル

第三條　臺灣總督ハ臺灣陸軍軍法會議ニ關シ師團長ノ師管軍法會議ニ於ケルト同一ノ職權ヲ有ス

第四條　臺灣總督府陸軍幕僚副官ハ陸軍檢察ニ關シ陸軍治罪法第三十一條ノ諸官ニ同シ

●普通治罪法、陸海軍治罪法交涉處分法（明治十八年五月第十二號布告）

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ牴觸スル者ハ當分施行セス（二十三年法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法ヲ發布シ普通治罪法廢止）

第一條　常人ニシテ陸軍刑法ノ若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通規則ニ從フ

第二條　軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衙ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人審問ハ上證憑書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條　敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條　軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條　多衆ノ軍人常人鬪毆殺傷其他疑讞ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問ス

ルコトヲ得

第六條　軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ効力ハ互ニ之ヲ犯スコトヲ得ス

●會同審問規則（十九年四月陸軍省令乙六十一號）

第一條　會同審問ハ鎮臺司令官若クハ營所司令官ノ上申ニ依リ陸軍大臣ヨリ海軍大臣若クハ司法大臣ヘ協議ノ上之ヲ開クモノトス

第二條　司令官會同審問ヲ要スルモノト認ムルトキハ意見書ニ訴訟書類ヲ添ヘ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第三條　會同官ハ司令官之ヲ命ス若シ他管ノ者ヲ要スルトキハ陸軍大臣ニ上請スヘシ

第四條　會同官ハ豫審ニ會同スルモノトス

第五條　會同官審問上必要ト認ムル事項ハ法廷外ニ於テ豫審判事審問委員ニ對シ訊問ヲ要求スルコトヲ得

第六條　會同官ハ審判ノ景況及ヒ雙方人心ノ關係等詳細ニ記錄シ司令官ニ上申シ司令官之ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

明治十七年四月陸軍省達乙二十三號

檢察處分及懲罰處分ヲ爲スニ當リ犯人ヲ營倉又ハ監獄ニ留置シ若クハ勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其權ヲ有スル者之ヲ命スルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

但其權ヲ有スル者現在セサル場合ニ在テハ犯人ヨリ上級ノ者假リニ之ヲ命スルコトヲ得ヘシ

●海軍治罪法（明治二十二年二月法律第五號）

朕海軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム海軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年三月十五日ヨリ施行ス

第一章　總則

第一條　軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス（二十二年法律第二十六號改正ニ依ル）

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之レヲ審判ス

第二條　軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條　軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條　長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ

司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條　親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條　普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス（治罪法ハ刑事訴訟法ヲ以テ廢止）

第七條　歸休兵及ヒ豫備、後備ノ軍籍ニ在ルモノハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條　臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章　軍法會議ノ搆成

第九條　軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議
鎮守府軍法會議
艦隊軍法會議
高等軍法會議
合圍地軍法會議

東京軍法會議各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合圍地軍法會議ハ臨戰合圍ノ戒嚴間之ヲ設ク

第十條　軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ錄事ヲ以テ搆成ス

第十一條　判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ

臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被告人
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以下ノ軍人
佐官一名	大尉少尉二名	海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官
佐官一名	大尉(奏任官四等)二名若クハ一名 大尉(同五等)二名若クハ三名	海軍大尉奏任官五等及同等ノ陸海軍人
大佐一名	少佐(奏任官四等)二名若クハ一名 大尉(奏任官四等)二名若クハ三名	海軍大尉奏任官四等及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐(奏任官一等)一名	大佐(奏任官二等)二名若クハ一名 少佐二名若クハ三名	海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人
少將一名	大佐(奏任官一等)二名若クハ一名 大佐(同二等)二名若クハ三名	海軍大佐奏任官二等及ヒ同等ノ陸海軍人
中將一名	少將大佐(奏任官一等)二名若クハ一名 二名若クハ三名	海軍大佐奏任官一等及ヒ同等ノ陸海軍人
中將一名	中將少將二名若クハ一名 二名若クハ三名	海軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將一名	中將少將三名若クハ二將 一名若クハ二名	法軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將一名	大將中將一名 三名	陸海軍大將

第二表

判士長	一名	判士	四名
佐官	一名	尉官	二名
佐官	一名	大尉 少尉	二名
大佐	一名	少佐 大尉（奏任官四等）二名若クハ一名 大尉（同五等）二名若クハ三名	海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 海軍大尉奏任官五等及ヒ同等ノ陸海軍人
大佐（奏任官一等）一名		大佐（奏任官二等）二名若クハ一名 少佐 二名若クハ三名	海軍大尉奏任官四等及ヒ同等ノ陸海軍人 海軍少佐及ヒ同等官ノ陸海軍人
少將	一名	大佐（奏任官一等）二名若クハ一名 大佐（同二等）二名若クハ三名	海軍大佐奏任官二等及ヒ同等ノ陸海軍人
中將	一名	少將 大佐（奏任官一等）二名若クハ一名 大佐（奏任官一等）二名若クハ三名	海軍大佐奏任官一等及ヒ同等ノ陸海軍人

第十二條　軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判ス可キトキハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條　外國又ハ戰地ニ數隻ノ艦船ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開クノ權ヲ附與スルコトヲ得此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ同シ

第十四條　將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス
佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若クハ艦隊ニ於テハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス
艦隊ニ於テ判士ト爲ル可キ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
鎮守府若クハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條　艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條　合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

第十七條　臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ツルコトヲ得

第十八條　判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判從事ニスルコトヲ得ス
一　被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬
二　被告人被害者ノ後見人
三　告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條　原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス

海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニ其事件ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條　第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　軍法會議ノ權限

第二十一條　東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一　司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者（二十二年法律第二十六號改正ニ依ル）

二　第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委任ヲ受ケタル者

第二十二條　鎭守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一　鎭守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎭守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者（同上）

二　第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委托ヲ受ケタル者

第二十三條　艦隊軍法會議ハ艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス（同上）

艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法會議ニ委スルコトヲ得

艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要ルス場合ニ於テハ直チニ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

但其事由ヲ速ニ其艦隊司令長官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條　艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者內國ニ在テ犯罪發覺シタルトキハ本人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條　佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍區內ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會事ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得（同上）

第二十六條　高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯シタル罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲナス（同上）

第二十七條　合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル罪ヲ審判ス（同上）

第二十八條　合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十九條　臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管

轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條　俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條　軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ現役ヲ去リタル後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條　軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキモ亦同シ（二十二年法律第二十六號改正ニ依ル）

第三十三條　數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條　重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條　合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章　海軍檢察

第三十六條　海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ搜査シ證憑ヲ收集ス

第三十七條　海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一　艦船營副長分隊長

二　生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事

三　衛兵司令

四　軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條　各廳長官ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十九條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條　何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條　海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乘員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス可シ

第四十二條　憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條　海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察巡査ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條　何人ヲ論セス何人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條　憲兵卒巡査現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條　海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑托スルコトヲ得

第四十七條　海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條　海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條　憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作リ海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條　告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條　海軍檢官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船ヲ經由ス可シ

二　違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ

三　裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍官人ナルトキハ其事件ヲ管轉ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四　高等軍法會議ノ管轉ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章　審問

第五十二條　長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一　其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二　審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條　主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發スヘシ被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條　主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコ

トヲ得

第五十五條　主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條　主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其他ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條　勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條　主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其他ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分囑託スルコトヲ得

第五十九條　主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサレトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送リ其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得收禁狀ヲ發シシタル後被告事件禁錮以上刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條　勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ヲ受ク可キ被告人艦船營若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營隊長伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

陸軍營內若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其他ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑托スルコトヲ得

第六十三條　主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道官署及ヒ誌會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件收受開披スルコトヲ得其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分囑托ナルコーヲ得

第六十四條　主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條　左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

一　被害者

二　被害者及ヒ被告人ノ親屬

三　被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四　被害者及ヒ被告人ノ雇人

五　現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者

六　重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者

七　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八　十六歲未滿ノ者

九　知覺精神ノ不充分ナル者

十　瘖啞者

第六十六條　主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅捜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作リ其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條　主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシ

ム可シ

主理ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條　主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出庭スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條　主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル祕密ノ事件ニ依リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條　主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十二條　主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條　證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之ヲ爲ス可シ

第七十四條　主理ハ被告事件ニ關スル調書說明ノ爲メ其調書ヲ作リタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條　主理審問ニ於テ共犯附帝犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直チニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條　軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十七條　主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但艦船營內居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十八條　主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　審判若若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作リ訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二　裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十九條　長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章　判決

第八十條　軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條　判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條　判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條　判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條　證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一　違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二　輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條　判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條　判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帝犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條　被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十八條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走

ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條　數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條　主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スヘシ

會議ノ事決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第九十一條　判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士錄事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一　判決ノ理由

二　有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三　無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證憑備ラサルコト

四　免訴ノ判決書ニハ公訴期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五　管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六　私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七　被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第九十二條　長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一　死刑ニ該リタルトキ

二　佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三　尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條　海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキハ意見書ヲ附シ上奏スヘシ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下附シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條　臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條　長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條　海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ム

ルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條　裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條　禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ闕席ノママ宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フヘシ其所在分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條　被告人闕席ノママ宣告ヲ爲シタルトキ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ掲示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第百條　外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得

戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章　再審

第百一條　海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第百二條　軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルモノアルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一　人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二　同一ノ事件ニ付共犯ニ非システ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ

三　公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四　既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六　公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第百三條　海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ長官事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條　再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ添フ可シ
長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ
海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ

第百五條　海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百六條　再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章　復權

第百七條　復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得
其復權願書ハ二通リ作リ本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

一　裁判宣告書ノ謄本
二　主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
三　假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書
四　賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書
五　過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百八條　海軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ主理ヲシテ更ニ必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百九條　復權ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ地方長官ヲ經テ裁可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ
主理ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百十條　復權ノ願棄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ主理ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ
復權ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章　特赦

第百十一條　特赦ノ申請ハ刑ノ宣告爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主理若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得
主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ
司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書

面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徵シ自己ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百十三條　海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十四條　特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第百十五條　特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ

主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

◉海軍治罪法執行規則（明治二十四年九月海軍省第百八十三號達）

海軍治罪法執行規則目錄

第一章　檢察
第二章　審問及判決
第三章　再議再審及特赦
第四章　宣告執行
第五章　罰金科料沒收物贓物證據物處分

海軍治罪法執規則

第一章　檢察

第一條　海軍檢察官犯罪ノ搜査ヲ爲シタルトキハ搜査始末書ヲ作リ事證ト爲ス可シ

第二條　海軍檢察官口述ヲ以テ爲シタル告訴告發ヲ受ケタルトキハ之ヲ錄取シ告訴人告發人ニ諮問セ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第三條　代人ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル者ニハ其告訴狀告發狀ニ代人タルノ事由ヲ附記セシム可シ

第四條　告訴人告發人ニハ證人ノ氏名其他成ル可ク事實ノ證憑參考ト爲ル可キコトヲ申立シム可シ

第五條　海軍檢察官ハ告訴告發ノ事件ヲ分明ナラシムル爲メ其告訴人告發人若クハ其關係人若クハ被告人ヲ訊問スルコトアル可シ但シ外國公使館ニ雇ハレ若クハ其館內ニ在ル者ナルトキハ第二十六條ノ例ニ從フ可シ

第六條　告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ證書ヲ渡ス可シ

第七條　告訴人告發人其陳述ヲ變更センコトヲ請求シタルトキハ其陳述ヲ錄取シ之ヲ告訴狀告發狀ニ添ヘ置ク可シ

第八條　告訴人告發人ヨリ其願下ヲ爲ストキハ願書ヲ出サシメ聞屆ノ旨ヲ朱記シテ本人ニ下付シ訴訟書類ニ其事由ヲ記入シ置ク可シ

第九條　海軍檢察官ハ告訴人告發人ノ願下ケアルニ拘ハラス其事件有罪ナリト認メタルトキハ海軍治罪法第五十一條ノ手續ヲ爲ス可シ但告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ハ此限ニ在ラス

第十條　軍人職務上ニ因リ告發ヲ爲ストキハ其官職氏名ヲ記シタル書面ヲ以テシ海軍檢察

官ハ之ヲ受ケタルノ證書ヲ渡ス可シ

第十一條　海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲ストキハ第二章ノ例ニ依ル

第十二條　告訴人本案附帶ノ私訴ヲ爲シタル後其願下若クハ棄權ノ申立ヲ爲シ若クハ其要求ノ變更ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ要求書ニ記入シテ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第十三條　海軍檢察官ハ犯罪人自首スルトキ口述ヲ以テスルモノハ其口述ヲ錄取シ書面ヲ以テスルモ尙ホ推問ヲ要スルモノハ之ヲ推問シ其調書ヲ作ルヘシ

第十四條　海軍檢察官現行犯ノ場合ニ在テハ密問ニ屬スル檢證訊問其他ノ處分ヲ爲スト雖モ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者ニ對シテハ宣誓ヲ用フルコト無カルヘシ又罰金ヲ科スルコトヲ得ス

第十五條　海軍檢察官現行犯ノ場合ニ於テ被告人證人事實參考人其他訴訟關係人ヲ訊問シタルトキハ調書ヲ作リ之ヲ本人ニ讀聞セ其陳述ニ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシムヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第十六條　各廳長艦船團隊長自ラ檢察ノ處分ヲ爲ストキハ前數條ノ手續ニ從フヘシ

第十七條　海軍檢察官各廳長艦船團隊長檢察ノ處分ヲ終リ海軍大臣若クハ長官ニ具申スルトキハ左ノ書類ヲ添フヘシ但シ艦船團隊長及ヒ學校長ノ部下ニ屬スル海軍檢察官之ヲ具申スルトキハ被告人ノ所屬長ヲ經由スヘシ

一　搜査始末書
二　被告人調書
三　被害屆書
四　私訴ノ要求書
五　證人調書
六　證據物品目錄證據書類其他參考書類
七　鑑定書
八　檢證調書
九　所在分明ナラサル被告人ノ人相書

被告人ノ所屬長檢察ノ處分ヲ爲シ具申ヲ爲ストキ若クハ其部下ニ屬スル海軍檢察官ノ檢察具申ヲ進達スルトキハ被告人ノ前罰科宣告書アレハ其全文(素行調書ヲ添フ可シ

第十八條　被告事件罪ト爲ラス又ハ受理ス可カラサルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲ス可カラス但告訴人アルトキハ其旨ヲ告知シ被告人ヲ收禁シタルトキハ直チニ釋放ス可シ

第二章　審問及判決

第十九條　長官審問若クハ審判判決ノ命令ヲ下ストキハ命令書ヲ訴訟書類ト共ニ主理ニ下付ス可シ

艦隊ニ在テハ長官其部下ノ將校著クハ相當官ニ主理ヲ命シ以テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

裁判管轄ニ非ルモノ及ヒ命令ヲ下ス可カラサルモノハ其書類ヲ返還スヘシ

第二十條　主理審問審判判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ其命令ヲ受ケタル日ヨリ遲クトモ五日以內ニ被告人ヘ召喚狀ヲ發スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　召喚狀ヲ發スルトキ被告人船艦團隊若クハ學校所屬ノ者ナルトキハ其所屬ノ艦船團隊校若クハ被被事件具申シタル檢察官ニ移シテ送達ノ處分ヲ求ムヘシ但艦船團隊校所屬ノ者ト雖モ艦船團隊校外ニ在ルトキハ直チニ本人ニ送達シ出廷セシムルコトヲ得

第二十二條　拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ヲ留置シタルトキハ之ヲ其所屬長ニ通報ス可シ但留置ノ期限ハ休暇ノ日ヲ算入セサルモノトス

第二十三條　收禁狀ヲ發シ若クハ之ヲ取消シタルトキハ主理ヨリ直チニ被告人ノ所屬長ニ通報シ其高等官ニ在テハ尚ホ所管長官ニ具申シ長官ハ海軍大臣ニ具申スヘシ

被告人帶勲者ナルトキハ勳章年金褫奪及停止取扱手續第八條ニ依リ其處分ヲ爲スヘシ

第二十四條　被告人ヲ收禁シタルトキハ之ヲ監獄ニ送致スヘシト雖モ訊問其他取調ノ都合ニ依リ假ニ留置所ニ留置スルコトヲ得但此場合ニ於テハ主理ヨリ監獄課長ニ通知スヘシ

其被告人ヲ護送スルトキハ下士衛兵又ハ監護ヲシテ之ヲ護送セシムヘシ

第二十五條　令狀ハ二通ヲ作リ之ヲ送達若クハ執行シタルコト及ヒ其日時場所ヲ記入シ其一通ヲ本人ニ渡シ一通ヲ錄事ニ還納シ錄事ハ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置クヘシ但執行スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ記入スヘシ

第二十六條　外國公使館內ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ要シ若クハ令狀ヲ受クヘキ者外國公使館ニ屬ハレ若クハ外國公使館內ニ在ルトキハ主理其事實ヲ記シ其公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

海軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ主理其旨ヲ公使官吏ニ告ケ檢證處分ヲ爲シ若クハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ令狀執行者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシムヘシ

第二十七條　被告人ヲ賣付シタルトキハ主理賣付セラレタル者ヲシテ注意視察シ且何時ニテモ呼出シニ應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ出サシムヘシ

被告人呼出ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ出廷セサルトキハ賣付ヲ取消スヘシ被告人ヲ賣付シタルトキハ其所屬長ニ通報スヘシ

第二十八條　證人鑑定人通事事實參考人參考ノ爲メ鑑定ヲ命スヘキ者軍人ナルトキハ第二十一條ノ例ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

第二十九條　判士長判士主理ニ於テ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者ニ罰金ヲ科スルトキハ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ宣告ス可シ判士長宣告ヲ爲ストキハ主理之ニ立會フ可シ

呼出ニ應セサルニ因リ罰金ヲ科セラレタル者艦船團隊若クハ學校居住ノ者ナルトキハ主理宣告書ノ謄本ヲ本人所屬ノ艦船團隊若クハ學校ニ移シテ其送達ヲ求メ且罰金ヲ限內完納セシム可キ旨ヲ照會シ其他ハ直チニ宣告書ヲ其住所ニ送達スヘシ

判士長ノ科スル罰金ノ宣告書ハ判士長錄事署名捺印シ主理ノ科スル罰金ノ宣告書ハ主理錄事署名捺印ス可シ

罰金ノ宣告ヲ爲シ若クハ其宣告ヲ取消シタルトキハ主理之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ又其本人軍人ナルトキハ其所屬長ニ通報シ海軍治罪法第七十條ニ依リ罰金ヲ科シタルトキニ其本籍ノ市町村長若クハ區戶長ニ通報ス可シ

限內罰金ノ納完セサルトキハ第六十條ノ例ニ從フ可シ

第三十條　臨檢若クハ家宅搜索ノ場所ニ於テ物件ヲ押收シタルトキハ錄事ヨリ立會人ニ受領證ヲ渡スヘシ其物件ヲ還付シタルトキハ受領證ヲ返還セシムヘシ

押收シタル物件ノ運送若クハ保管ノ事ハ錄事之ヲ擔任スヘシ

其物件ヲ運送スルコト能ハサルトキハ錄事立會人ニ假預ヲ爲シ擔保ノ證書ヲ徵スヘシ但其物件ニ封印ヲ要スルトキハ主理其封印ヲ爲スヘシ

第三十一條　調書說明ノ爲メ呼出シタル官吏ノ陳述ハ錄事之ヲ錄取シ主理錄事其官吏ト共ニ署名捺印シ調書ニ添ヘ置クヘシ

第三十二條　主理審問ニ於テ發覺シタル共犯者附帶犯者ヲ審問シタルトキハ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申ス可シ

第三十三條　主理裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キノ具申ヲ爲シ其認可アリタルトキハ言渡書ヲ作リ錄事ト共ニ署名捺印シ主理錄事法廷ニ臨ミ主理其言渡ヲ爲シ其裁判管轄ニ非サルモノハ其事件管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ海軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡クルノ後其地ノ檢事ニ送致ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スルトキハ下士衞兵又ハ監護ヲシテ護送セシムシ

免訴ノ言渡ヲ爲シタルキト被告人收禁セラレタルトキハ直チニ之ヲ釋放ス可シ

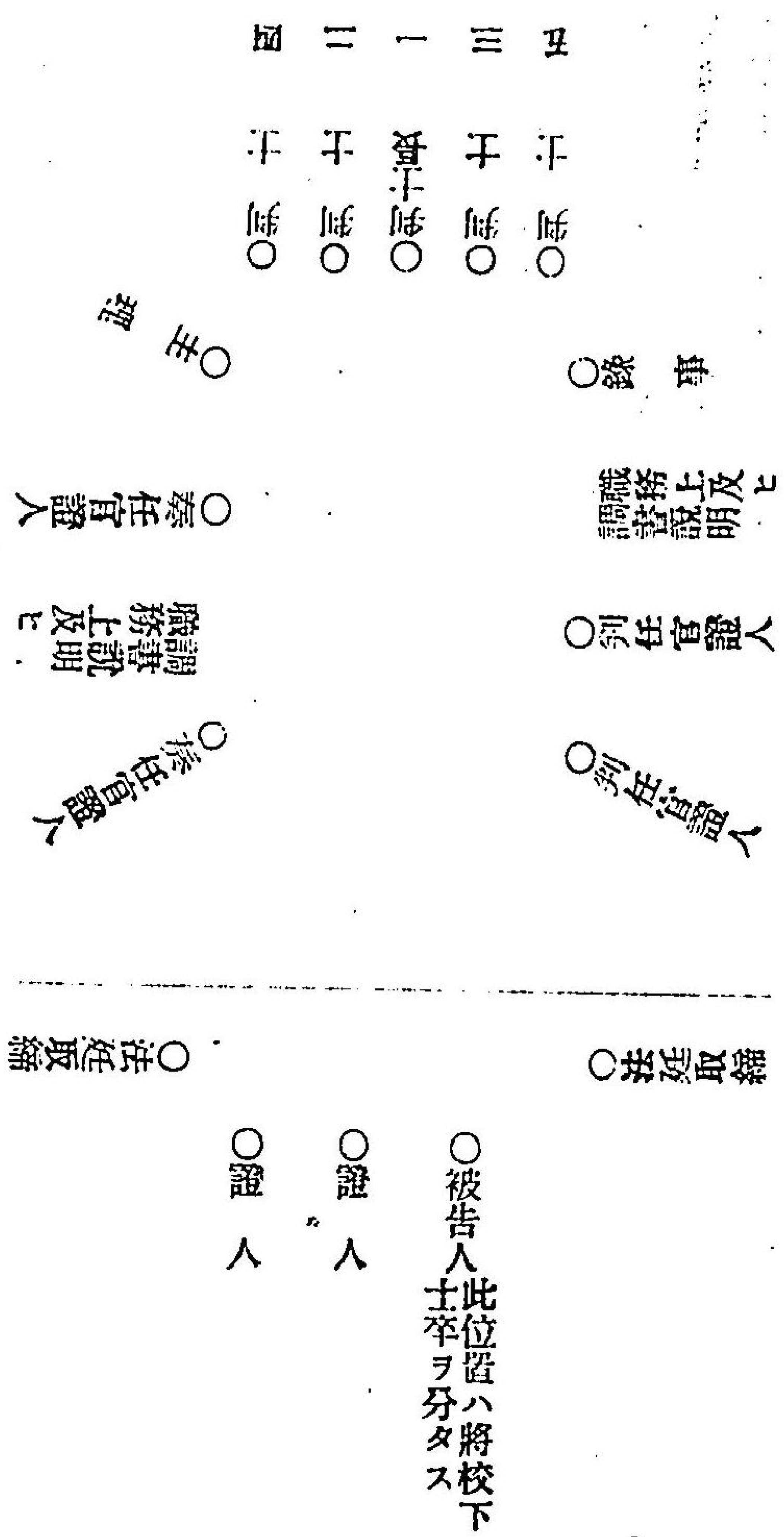
第三十四條　主理前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ且被告人ノ所屬長ニ通報ス可シ若シ被告人收禁ヲ受ケタル者ナルトキハ監獄課長ニ通報シ責付ヲ受ケタル者ナルトキハ其親屬故舊ニ告知ス可シ

第三十五條　主理陸軍治罪法第七十八條ニ依リ意見書ヲ作ルトキハ同第九十一條ノ例ニ從テ之ヲ作リ且加重減輕ス可キトキハ其模樣及ヒ私訴ニ對スル意見ヲモ記載スヘシ

第三十六條　附帶ノ私訴アリタル事件ニシテ免訴若クハ管轄違ノ言渡アリタルトキハ主理ヨリ其告訴人ニ告知スヘシ

第三十七條　直ナニ判決ニ付セラレタル事件ニ於テ士長若クハ主理審問ヲ必要ト認ムルトキハ其命令ヲ下シタル海軍大臣若クハ長官ニ之ヲ具申スルコトヲ得

第三十八條　法廷ノ席次左ノ如シ



第三十九條　判士長ハ被告人ノ官位勳爵職名氏名族籍年齡住所前科ノ有無ヲ問ヒ被告事件ヲ訊問スル旨ヲ告ケ錄事ヲシテ主理ノ爲シタル訊問調書ヲ諳示セシムヘシ若シ主理ノ訊問調書ナキトキハ檢察官ノ爲シタル調書若クハ意見書等被告事件ノ大要ヲ知ルニ足ルヘキ書類ヲ諳示セシムヘシ

第四十條　錄事ハ判決始末書ヲ作リ主理ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添ヘ置クヘシ但被告人證人專賢參考人審問ヲ經タル者ナルトキハ前ニ爲シタル陳述ト異ナル所ノミ其要領ヲ錄取スヘシ

第四十一條　判決ニ必要ナル爲メ檢證處分ヲ爲シ又ハ召喚狀拘引狀ヲ發シ又ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命スル者ヲ要スルニ就テノ手續ハ總テ審問ノ手續ニ同シ

第四十二條　判決ノ時ニ於テ其犯者附帶犯者ヲ覺舉シテ直チニ判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシメタルトキハ判士長ヨリ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テ海軍治罪法第十一條第二表ニ照シ共犯者附帶犯者ノ官等現判士長判士ヨリ高等ノ判士長判士ヲ要スルトキハ判士長之ヲ長官ニ具申シ長官ハ更ニ審問若クハ審判判決ニ付スルノ手續ヲ爲スヘシ

主理其審問ヲ爲シタルトキハ意見書ヲ判士長ニ交付スヘシ

第四十三條　軍法會議ノ判決ハ過半數ノ說ヲ以テ之ヲ決ス其說三說以上ニ分レ過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル說ヨリ順次利益ナル說ニ合算ス賠償ノ金額ニ關シ三說以上ニ分レ其說過半數ニ至ラサルトキハ過半數至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス

發說ノ順序ハ下級ノ者ヨリ其說ヲ述ヘ順次上級ニ遡ホルヘシ同級ノ者二人以上アルトキハ其同級中後任ノ者始メニ其說ヲ述フヘシ

第四十四條　宣告執行ノ命令アリタルトキハ主理宣告ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報シ錄事ヲシテ被告人ヲ出廷セシムルノ手續ヲ爲サシムヘシ

私訴裁判ノ宣告ヲ爲ストキハ其被害者ヲモ出廷セシムヘシ但被害者其地ニ在ラサルトキハ其宣告書ヲ被害者ニ送達スヘシ

第四十五條　裁判宣告ノ時傍聽人ノ席ハ左ノ三區ニ別ツ

一　勅任官
二　奏任官
三　判任官以下

第四十六條　主理ハ三月毎ニ審問判決ノ事件表ヲ作リ之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申スヘシ

長官ハ前項ノ具申書ヲ海軍大臣ニ出スヘシ

第三章　再議再審及特赦

第四十七條　主理ハ再議ニ付スルノ命令アリタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ付シテ判士ニ通報スヘシ

第四十八條　再議ニ付セラレタル事件原會議ニ於テ取調タル事實明瞭ナラサルトキハ更ニ其取調ヲ爲スヘシ

第四十九條　再審ノ命令アリタルトキハ他ノ事件ヲ閣キ其審判ヲ爲スヘシ

第五十條　再審ノ命令ヲ受ケタルトキ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ爲サスシテ判決ヲ爲ハコトヲ得

其宣被ハ宣被書ヲ被告人所在ノ地ノ軍法會議ヲ管轄スル長官ニ移シ其所屬軍法會議ニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス

第五十一條　再審ノ申訴ヲ爲スニ付被告人若クハ其親屬ヨリ訴訟書類ヲ謄寫センコトヲ請求スルトキハ主理之ヲ認可シ謄寫セシムヘシ

第五十二條　軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言渡シ對シ上告スル者アルトキハ主理辨明書ヲ作リ訴訟文書ニ添ヘ海軍大臣若クハ長官ヲ經由シ之ヲ大審院ニ送致スヘシ

第五十三條　海軍大臣若クハ長官特赦狀ノ下付ヲ受ケタルトキハ之ヲ主理ニ下付シ本人ニ傳達スルノ處分ヲ爲サシムヘシ

主理特赦狀ノ下付ヲ受ケ其傳達ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ本人ノ所屬長竝ニ本籍ノ市町村長若クハ區戸長ニ通知スヘシ

第四章　宣被執行

第五十四條　收贖ヲ受ケタル被告人ニ對シ無罪免訴若クハ罰金科料ノ宣告アリタルトキハ主理直チニ之ヲ放ス可シ

重罪ノ刑及禁錮拘留竝懲治場ニ留置スルノ宣告アリタルトキハ主理被告人ヲ監獄ニ交付スヘシ

管轄違ノ宣告アリタルトキハ主理其事件ヲ管轄スヘキ軍法會議所在ノ地ノ海軍檢察官若クハ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ宣告アリタルトキハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ檢事ニ送致シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付スルノ宣告アリタルトキハ地方警察署ニ送致スヘシ

前數項ニ依リ被告人ヲ交付スルトキハ第三十三條第三項ニ從ヒ送致セシメ收禁ニ係ル被告人釋放シ及ヒ他方ニ移ストキハ其旨ヲ監獄課長ニ通報スヘシ

第五十五條　徒流懲役禁獄ノ刑ニ處シタル者陸海軍刑法執行官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法禁錮ノ刑ニ處シタル將校及ヒ相當官軍屬禁錮ノ刑ニ處シタル當人ノ交付ヲ受ケタルトキハ監獄課長裁判宣告書ヲ添ヘ其地方監獄ニ送付スヘシ

第五十六條　再審ノ裁判ニ依リ更ニ刑ヲ執行スルトキハ先キニ執行シタル刑ヲ通算シ其刑ノ停止中拘禁シタル者ハ其拘禁日數ヲ刑期ニ算入ス

第五十七條　刑ノ宣告ヲ受ケタル者帶勲者ナルトキハ宣告書ノ謄本ヲ添ヘ主理之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申スヘシ

長官ハ勲章年金褫奪及ヒ停止取扱手續第二條第七條ニ從ヒ處分スヘシ

褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收シタルトキハ主理之ヲ海軍大臣若クハ長官ニ差出シ長官之ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

第五十八條　有罪無罪ヲ問ハス裁判宣告アリタルトキハ主理其都度被告人ノ所屬長ニ通報スヘシ又宣告書ノ寫ヲ以テ長官ニ屆出テ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ屆出ツヘシ(二十九年海軍省達第百三十號ヲ以テ本項改正)

闕席ノママ宣告アリタル者ニ係ルトキハ其宣告書ヲ被告人ノ現住所ニ送達シ被告人逃亡中ナルトキハ本籍ノ住所ニ送達スヘシ

刑ノ宣告及ヒ再審ノ裁判ニ於テ無罪免訴ノ宣告アリタルトキハ其旨ヲ被告人本籍ノ市町村長若クハ區戸長ニ通報シ他管ノ軍人ニ係ルトキハ其本管軍法會議ニモ通報スヘシ

第五十九條　罰金科料ノ宣告アリタルトキハ主理期限內ニ之ヲ納完セシム其被告人艦船團隊若クハ所屬長ニ囑託シテ納完セシム可シ但シ艦船團隊若クハ學校ニ金圓ヲ格納シアル旨ヲ申立ツルトキハ監獄課長ヨリ所屬長ニ囑託シテ納完セシム可シ

第六十條　罰金科料ヲ限內納完セサルトキハ主理之ヲ輕禁錮若クハ拘留ニ換フルノ言渡書ヲ作リ錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ言渡シ監獄ニ交付ス可シ直チニ換刑ノ言渡ヲ爲ストキ亦同シ

被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ言渡書ヲ其所在ノ地ノ軍法會議ノ主理若クハ所屬長ニ送致

シ其言渡及ヒ執行ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル者之ヲ執行シタルトキハ其旨ヲ軍法會議ノ主理ニ通報スヘシ

禁錮拘留限内罰金科料ヲ納完シタルトキハ主理又ハ前項ノ囑託ヲ受ケタル者放免ノ處分ヲ爲ス可シ

第六十一條　罰金科料ヲ禁錮拘留ニ換ヘ若クハ放免ノ處分ヲ爲シタルトキハ主理其旨ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申スヘシ

第六十二條　死刑執行ノ命令アリタルトキハ主理豫メ其期日ヲ定メ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ兵員出場ノ處分アランコトヲ請ヒ又監獄課長及同署勤務ノ醫官ニ通報スヘシ

監獄調長ハ主理ノ通報アリタルトキハ死刑執行ノ準備ヲ爲スヘシ

第六十三條　死刑ヲ執行スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ主理監獄課長(艦船ニ在リテハ尉官トス以下同シ)醫官錄事之ニ立會ヒ監獄課長死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後銃手之ヲ射殺ス

第六十四條　銃手ハ水兵十二名ヲ選ヒ尉官一名之ヲ指揮スヘシ

銃手ハ六人ヲ以テ前列トシ六人ヲ以テ後列トシ囚人ヲ距ル十歩ノ地ニ於テ前列ヲシテ囚人ノ眉間ヲ狙ヒ一齊ニ發射シテ之ヲ擊タシム可シ死ニ至ラサルトキハ後列ヲシテ同シク之ヲ擊タシム

第六十五條　死刑ヲ行フトキハ衛兵若クハ水兵若クハ憲兵ヲシテ刑場ヲ警戒セシメ執行ニ關スル者ノ外入ルコトヲ許サス但主理ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第六十六條　死刑ノ執行ノ始末書ハ錄事之ヲ件リ主理監獄課長醫官錄事署名捺印スヘシ

第六十七條　死刑ノ執行終リタルトキハ監獄課屬員(艦船ハ下士トス)ヲシテ埋葬ノ處分ヲ爲サシメ遺骸ノ下付ヲ請フ者アルトキハ其下付ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第六十八條　死刑ノ執行終リタルトキハ主理其旨ヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五章　罰金科料沒收物贓物證據物處分

第六十九條　犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判宣告ヲ爲スマテニ所有主ヲ發見セサルトキハ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ宣告ヲ爲スヘシト雖モ其物件ハ其軍法會議所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間(公告シタル日ヨリ起算ス)ニ所有主ヲ發見シタルトキハ主理之ヲ還付スヘシ但其物件ハ沒收ノ宣告ヲ爲シタルトキハ成規ニ依リ之ヲ物品會計官吏ニ送致シ同官吏之ヲ保管スヘシ若シ同官吏ニ於テ保存スヘカラサルカ又ハ之ヲ保存スルニ付費用ヲ要スヘキモノト思料シタルトキハ之ヲ公賣シ其代價ヲ收入官吏ニ移シ同官吏之ヲ保存スヘシ

第七十條　沒收物件中法律ニ於テ禁制シタル物件ハ之ヲ截斷若クハ燒棄スヘシ但僞造貨幣ノ如キ原質ヲ存スヘキモノハ之ヲ截斷シ事由ヲ付シテ物品會計官吏ニ送致スヘシ

第七十一條　犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ハ一年ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第七十二條　罰金科料及ヒ沒收金ハ事由ヲ記シ主理ヨリ之ヲ收入官吏ニ送致スヘシ

第六十條第三項ニ依リ納完シタル罰金科料ハ同條第二項ニ依リ囑託ヲ受ケタル者ヨリ囑託ノ收入官吏ニ移シ同時ニ其旨ヲ原軍法會議ノ主理ニ通報スヘシ

第七十三條　主理前諸條ニ依リ金錢物件ヲ當該ノ官吏ニ送致シタルトキハ其事由ヲ記シ當該官吏ノ領收書證ト共ニ訴訟書類ニ添ヘ置クヘシ

第七十四條　贓物若クハ證憑物件ヲ所有主ニ還付スルトキ遠隔ノ地ニ送付ヲ請フモノハ海陸便宜ノ方ニ依テ送付シ其運賃ハ本人ヲシテ負擔セシム但官ヨリ押收シタル證據物件ノ運賃ハ官ノ負擔トス

第七十五條　犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ沒收ニ係ルモノ又ハ證憑ノ爲メ官ニ領置スルヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ實際ノ便宜ニ依リ假ニ所有主ニ下ケ渡スコトヲ得

第七十六條　沒收シタル物件ノ內犯罪ノ搜査鑑定ノ爲メ必要ト認ムル異種ニ屬スル物品ハ公費ニ付スルコトナク之ヲ保存スルコトヲ得此場合ニ於テハ物品會計官吏ハ本案ノ審判ヲ爲シタル軍法會議ノ主理ニ之カ保存ノ依託ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　犯人數所又ハ一所ニ於テ數人ヨリ得タル贓金ヲ混同シテ其幾分ヲ費稽其殘額現存スルトキハ按分程式ニ依リ各所有主ニ分付スヘシ

第七十八條　海軍大臣若クハ長官ハ事變ニ際シ若クハ戰時ニ在テハ此規則ノ手續ヲ變更省略スルコトヲ得

㊟海軍省令第三號（三十年三月）

海軍下士卒現役中刑罰ニ處セラレタルトキハ海兵團ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知スヘシ

地方廳ニ於テハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ島司郡市長(東京市京都市大阪市及市制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區長ニ達シ本人ノ父兄(父兄ナキトキハ親戚)ニ通達セシムヘシ

㊟臨時海軍々法會議法（明治二十八年二月法律第五號）

第一條　戰時又ハ事變ニ際シ特ニ設ケタル司令長官若ハ司令官ノ下ニ臨時海軍軍法會議ヲ置クコトヲ得

第二條　臨時海軍軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ察判ス

一　特ニ設ケタル司令長官若ハ司令官ノ部下ニ屬スル左官以下ノ軍人其ノ他從軍諸員及海軍ノ用ニ供スル船舶乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者

二　第三條ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第三條　艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及艦隊ニ屬スル艦船長ハ海軍治罪法第二十三條第二項第三項ノ例ニ依リ臨時海軍軍法會議ニ審判ヲ委託スルコトヲ得

第四條　臨時海軍軍法會議ニハ海軍治罪法第二十七條第二十八條第二項及第九十四條ヲ除ク外合囲地軍法會議ニ關スル規程ヲ準用ス第五條此ノ法律ハ發布ノ日ヨリ施行ス

嚴戒嚴令（十五年八月第三十六號布告）

第一條　戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條　戒嚴ハ臨戰地境ト合囲地境トノ二種ニ分ツ

第一　臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區域ト爲ス者ナリ

第二　合囲地境ハ敵ノ合囲若クハ攻擊其他ノ事變ニ除シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合囲ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條　戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條　戰時ニ際シ「鎭臺」營所要塞海軍港鎭守府海軍造船所等遽カニ合囲若クハ攻擊ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出

征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第五條　平時土寇ヲ鎭定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル塲合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條　軍團長師團長旅團長「鎭臺」營所要塞司令官警備隊司令宣若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令長官艦隊司令官鎭守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス（十九年勅令第七十四號ヲ以テ要塞司令官ノ下ニ警備隊云々十三字ヲ加フ）

第七條　戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ「太政官」ニ上申スヘシ但其隷屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申スヘシ

第八條　戒嚴ノ宣告ハ曩ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條　臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十條　合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十一條　合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章　皇室ニ對スル罪
第二章　國事ニ關スル罪
第三章　靜謐ニ害スル罪
第四章　信用ヲ害スル罪
第九章　官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節　謀殺故殺ノ罪
第二節　毆打創傷ノ罪
第六節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
第七節　脅迫ノ罪

第二章

第二節　强盜ノ罪
第七節　放火失火ノ罪

第八節　洪水ノ罪

第九節　船舶ヲ覆沒スル罪

第十節　家屋物品毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條　合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絕セシ時ハ民事刑事ノ別ナク續テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條　合圍地境內ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一　集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト

第二　軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト

第三　銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スルコト

第四　郵信電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五　戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動產不動產破壞燬燒スルコト

第六　合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入リ檢察スルコト

第七　合圍地境內ニ宿寄スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條　戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スルノ議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程並ニ謝金及手數料ニ關スル規程其ノ者トス

第十六條　戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

●法律規則中戰時ト稱スル場合（明治十五年八月第三十七號布告）

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ內亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムル者トス

第七章　辯護士　執達吏

辯護士法（明治二十六年三月法律第七號）

第一章　辯護士ノ資格及職務

第一條　辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フ者トス但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行フ事ヲ妨ケス

第二條　辯護士タラムト欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第一　日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

第二　辯護士試驗規則ニ依リ試驗ニ及第シタルコト

第三條　辯護士試驗ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第四條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一　判事檢事タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其請求ニ困リ登錄ヲ取消シタル者

第二　法律學ヲ修メタル法學博士、帝學大學法律科卒業生、舊東京大學法學部卒業生、司法省舊法學校正則部卒業生及司法官試補タリシ者

第五條　左ニ掲クル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二　不敬罪僞造罪、僞證罪、賄賂罪、誣告罪、竊盜罪、詐欺取財罪、費消罪、贓物ニ關スル罪、遺失物埋藏物ニ關スル罪、家資分散ニ關スル罪及刑法第百七十五條同二百六十條同第二百八十二條同第二百八十六條同第二百八十七條同第三百六十條ニ記載シタル定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　公權停止中ノ者

第四　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣會常罪委員トヲ爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但シ辯護士會ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　辯護士名簿

第七條　辯護士ハ辯護士名簿ニ登錄セラルルコトヲ要ス

第八條　各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登錄シタル地方裁判所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差出ス可シ

登錄請求書ニハ第二條乃至第六條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添フ可シ

第十條　登錄ヲ請フ者ハ登錄手續トシテ金二十圓ヲ納ム可シ

他ノ地方裁判所ニ登錄換ヲ爲ストキハ手數料トシテ金十圓納ム可シ

第十一條　登錄ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第三章　辯護士ノ權利及義務

第十二條（三十三年二月法律十六號ヲ以テ削除）

第十三條　辯護士ハ正當ノ理由ヲ證明スルニ非サレハ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條　辯護士ハ左ニ掲クル訴訟事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一　相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二　判檢事奉職中取扱ヒタル事件

第三　仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

第十五條　辯護士ハ係爭權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第十六條　辯護士ハ訴訟事件ノ委任ヲ承諾セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ委任者ニ通告スヘシ

告ヲ怠リタルトキハ之カ爲メ生シタル損害ノ責ニ任ス

第十七條　辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管內區裁判所所在ノ地ニ事務所ヲ定メ之ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ屆出可シ

第四章　辯護士會

第十八條　辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所每ニ辯護士會ヲ設立ス可シ

第十九條　辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク

第二十條　辯護士會ニ會長ヲ置ク又副會長ヲ置クコトヲ得

第二十一條　辯護士會ハ每年定期總會ヲ開ク又臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十二條　辯護士會ハ便宜ニ依リ常議員ヲ置クコトヲ得

二十三條　辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

第二十四條　辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十五條　辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ケ職務ヲ行ハムトスルトキハ其ノ職務ヲ行フヘキ地方裁判所所在ノ辯護士會會則ヲ遵守スヘシ

第二十六條　辯護士會會則ニハ會長副會長常議員ノ選擧及其ノ職務、總會、常議員會及其他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設ク可シ

第二十七條　會長副會長及常議員選擧ノ結果、總會及常議員會開會ノ日時場所及議題ハ辯護士會ヨリ之ヲ檢事正ニ屆出可シ

第二十八條　辯護士會ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

第一　法律命令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項

第二　司法大臣又ハ裁判所ヨリ諮問シタル事項

第三　司法上若ハ辯護士ノ利害ニ關シ司法大臣又ハ裁判所ニ建議スル事項

第二十九條　檢事正ハ辯護士會ノ會場ニ臨席スルコトヲ得又會議ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十條　辯護士會ノ會議ニシテ法律命令及辯護士會會則ニ違フモノアルトキハ司法大臣ハ其ノ議決ヲ無效トシ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

第五章　戒懲

第三十一條　辯護士ニシテ此ノ法律又ハ辯護士會會則ニ違背シタル所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會ノ決議ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲檢事正ニ申告ス可シ

檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒訴追ヲ檢事長ニ請求ス可シ

第三十二條　辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ懲戒裁判所ヲ開ク可シ

第三十三條　懲戒罰ハ左ノ四種トス

第一　譴責
第二　百圓以下ノ過料
第三　一年以下ノ停職
第四　除名

第三十四條　懲戒處分ニ付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三十五條　現在ノ代言人ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フトキハ試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第三十六條　現在ノ代言人本法施行前ニ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ其ノ判決ニ至ルマテ職務ヲ行フコトヲ得

第三十七條　第十二條ノ規定ハ現在ノ代言人ニ之ヲ適用セス

第三十八條　本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行ス

明治十三年司法省甲第一號布達代言人規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●執達吏規則（明治二十三年七月法律第五十一號）

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

執達吏規則

第一條　執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス

第二條　執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得

第一　告知及催告ヲ爲スコト
第二　動產不動產ノ任意競賣ヲ爲スコト
第三　拒證書ヲ作ルコト

第三條　執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其ノ職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ

第一　書類物品ノ送付ヲ爲スコト
第二　罰金科料過料ヲ徵收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト
第三　令狀ノ執行ヲ爲スコト

第四條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限リ執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條　執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ住居ヲ定ムヘシ但シ地方裁判所長ノ許可ヲ得タルトキハ其區裁判所管轄內ニ限リ他ノ地ニ住居ヲ定ムルコトヲ得

第六條　執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ役場ヲ設クヘシ

第七條　一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ

事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム

執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

第八條　執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルヘシ

第一　自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務タルノ關係ヲ有スルトキ

第二　自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ

但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第三　自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第九條　執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲メニノミ訴訟代理人及ヒ補佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第十條　執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若ケハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲クル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第一　執達吏ノ登用試驗ニ及第シタル者

第二　執達吏ノ職務修習者ニシテ三ケ月以上其職務ヲ修習シタル者

第三　裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者

第四　區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

第十二條　執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通知スヘシ

委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條　前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲クル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　執達吏ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ハ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ヲ携帶スヘシ

第十五條　執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス委任ヲ受ケ職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

執達吏ハ定規ノ手數料ヲ增減シ又ハ手數料及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　執達吏第三條ニ掲クル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手數料ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條　執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手數料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ

第十八條　第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

第十九條　執達吏一年間ニ收入セシ手數料百八拾圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス

第二十條　執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ拘留セラレタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

第一　官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト

第二　執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條　執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條　執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般ノ官吏ノ例ニ依ル

附則

第二十三條　執達吏ヲ置カサル間ハ區裁判所書記執達吏ノ職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者又ハ自己ノ適當ト思量スル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

裁判所書記前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ委任ヲ受ケタル者ニ執達吏ノ職務ニ付定メタル手數料十分ノ七以上支給スヘシ

第八章　行政裁判　訴願

行政裁判法（明治二十三年六月法律第四十八號）

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ內閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルルモノトス

書記ハ長官之ヲ專任ス

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三　兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ內閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條　長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先アル者之ヲ代理ス

第八條　長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第十條　長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ放テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條　忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條　行政裁判所ノ處務規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章　行政裁判所權限

第十五條　行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條　行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ內閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條　行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條　行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條　行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條　行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以內ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニヨリ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡
二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告
三　要求ノ事件及其理由
四　立證
五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條　行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條　行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條　行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ

所内ニ於テ之ヲ閲覧セシムルコトヲ得

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條　行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條　行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡ササル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條　行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サヽル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ擧證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條　審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條　召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコト

ヲ得

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條　行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章　附則

第四十四條　此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條　第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條　從前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

◉行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件（明治二十三年十月法律第百六號）

法律勅令ニ別段規定アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

一　海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件

◉訴願法（明治二十三年十月法律第百五號）

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ並下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限內ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以內ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以內ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴

願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ則段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條　明治十五年(十二月)第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願此ハ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

明治三十三年十一月廿日印刷
明治三十三年十一月廿六日發行

編輯兼發行者　東京市神田區今川小路二丁目四番地　金木芳藏

印刷者　東京市神田區南神保町十番地　三島保太郎

發行所　東京市神田區今川小路二丁目四番地　清水書店

216
2
127